

令和6年度

事業報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

令和6年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
（1）研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
（2）鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
（1）指導法に関する講習会の開催	
①ONKAN授業づくりセミナー2024	
②ONKANインターネットセミナー2024	
（2）研究大会・講習会等の後援	
（3）広報活動	
3 出版・情報発信	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
（3）ウェブサイト「ONKANウェブネット」の運営	
II 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業（公益目的事業2）	7
1 助成研究募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	8
1 財団保有の音楽関連資料の活用	
2 財団主催コンサート、音楽講座の開催	
3 財団後援・協賛コンサート	
4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売	
5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
6 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	10
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	11

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

- 令和6年度前半は、令和4年度からの研究テーマ「学習評価の具体に焦点を当てながら、学習内容にふさわしい指導方法を示す」について、評価の場面を具体的な子どもの姿で示すとともに、そのポイント（留意点）と、よりよい授業づくりの具体例（事例）をまとめた。研究成果は書籍「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり2 小学校・中学校 学習評価編（事例集）」として出版した。

後半は、研究テーマ「学習内容にふさわしい教材の選択と授業展開の開発」について、今後2年間で、教材研究に基づいたよりよい授業づくりの具体例（事例）を、その意図などの解説とともにまとめるよう、研究に着手した。

- 「授業づくりセミナー」のワークショップ、グループ研修について、具体的な内容を立案し、研究委員が講師を務めた。

回	開催日	検討内容
第1回	小学校部会 6月 9日(日) 中学校部会 6月 2日(日)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第2回	小学校部会 7月21日(日) 中学校部会 7月28日(日)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第3回	小学校部会 8月31日(土) 中学校部会 9月21日(土)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・これからの研究内容について意見交換
第4回	小学校部会 11月23日(土) 中学校部会 11月16日(土)	・これからの研究内容について、鑑賞指導の現状なども含めた意見交換
第5回	小学校部会 1月19日(日) 中学校部会 12月21日(土)	・これからの研究内容について、学習内容のまとめに関する意見交換
第6回	小学校部会 2月15日(土) 中学校部会 2月 1日(土)	・これからの研究内容について、学習内容のまとめに関する意見交換
第7回	小学校部会 3月 9日(日) 中学校部会 3月 2日(日)	・これからの研究内容について、学習内容のまとめに関する意見交換

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

部会	名前	所属・役職
主管	藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	井上 奈々	東京都千代田区立千代田小学校主任教諭
	清水 達也	東京都港区立麻布小学校指導教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立太尾小学校校長
	和智 宏樹	山梨県上野原市立上野原小学校教諭

中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭
	小川 大輔	広島県三原市立幸崎中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立高松中学校主任教諭
	高道有美子	東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭

(2)鑑賞指導に関する調査

各地で実践されている音楽科の授業や、音楽科で今後必要とされるICT教材、教具に関する情報収集を行った。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①ONKAN授業づくりセミナー2024

音楽鑑賞の指導について、教材研究から題材構想、授業展開の作成につながる授業づくりのための研修を、対面研修で開催した。

教員が参加しやすいように夏休み期間に集中的に開催し、3～6時間の講座を3本用意して、参加者が選択して受講できるようにした。

日 程：

セミナーA： 8月 9日(金) 9：30～12：30

セミナーB： 8月 9日(金) 13：30～16：30

セミナーC： 8月10日(土) 9：30～16：30

受講者：

セミナーA： 17人〈内訳〉小学校教員 8名、中学校教員 5名、その他4名

セミナーB： 25名〈内訳〉小学校教員10名、中学校教員10名、その他5名

セミナーC： 13人〈内訳〉小学校教員 4名、中学校教員 9名

内 容：

セミナーA：音楽講座「アンデスの音楽」

セミナーB：鑑賞指導法ワークショップ

小学校 教材「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」

中学校 教材「ボレロ」

セミナーC：鑑賞指導を深める少人数グループ研修

小学校 教材「トランペット吹きの休日」

中学校 教材「ブルタバ」

講 師：

フォルクローレ演奏グループ ウィニヤイ

(セミナーA)

河崎 秋彦 (元茨城県取手市立取手東小学校教諭)

(セミナーB 小学校分科会)

安部 文江 (長野県小諸市立小諸東中学校教諭)

(セミナーB 中学校分科会)

井上 奈々 (東京都千代田区立千代田小学校主任教諭)

(セミナーC 小学校グループ)

高道有美子 (東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭)

(セミナーC 中学校グループ)

監 修：

藤沢 章彦 (財団理事、元国立音楽大学教授)

後 援：

全日本音楽教育研究会

②ONKANインターネットセミナー2024

学校教育や音楽科教育の今日的な課題や情報の共有、当財団の研究成果の発表、音楽に関わる内容などの講義をインターネット講習(オンデマンド動画配信)で開催した。

日 程：

《第1回》 6月 5日(水)～26日(水)

《第2回》10月 7日(月)～28日(月)

《第3回》 2月 5日(水)～26日(水)

受講者：

《第1回》31人 〈内訳〉 小学校教員16名、中学校教員 4名、高等学校教員1名、
その他10名

《第2回》29人 〈内訳〉 小学校教員 5名、中学校教員13名、高等学校教員1名、
その他10名

《第3回》 8人 〈内訳〉 小学校教員 4名、中学校教員 1名、高等学校教員1名、
その他2名

内 容：

《第1回》GIGAスクール・ICT活用特集（アーカイブ配信）

講演「GIGAスクール構想でのICT端末活用」

実践発表「GIGAスクール構想における音楽科授業でのICT活用」

《第2回》助成研究発表「曲想や音楽の構造を感受し、言葉で表せる生徒の育成を目指して
～生徒が分かる、書ける音楽授業の展開～」

《第3回》音楽講座「アンデスの音楽」（ONKAN授業づくりセミナー2024の収録
配信）

講 師・発表者：

《第1回》

講演 西田 光昭（柏市教育委員会教育研究専門アドバイザー（2022年収録時））
実践発表

北川真里菜（和歌山大学附属小学校教諭（2022年収録時））

酒井 哲志（東京都品川区立大原小学校主幹教諭（2022年収録時））

板橋 薫（宮城教育大学附属中学校教諭（2022年収録時））

田那辺祐希（東京都文京区立第八中学校教諭（2022年収録時））

《第2回》力田和歌子（長崎大学教育学部附属中学校教諭）

《第3回》フォルクローレ演奏グループ ウィニャイ

（2）研究大会・講習会等の後援

- 書籍「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり」に基づいた鑑賞指導の講習会への講師派遣。

学習指導要領と学習評価に基づいた音楽鑑賞の指導、授業のあり方の改善を目指して、各地
区の音楽研究会等が主催する講習会に講師を派遣した。講師料は当財団が負担した。（3件／
参加人数：約110名）

- 広報協力

中国・四国音楽教育研究大会広島大会を後援した。

（3）広報活動

当財団の事業内容を広報するための活動を行った。

- 事業案内パンフレットを作成し、約4,000部を教員に配布した。
- 全日本音楽教育研究会全国大会旭川上川大会等に出展し、参加教員に対し事業を広報した。
- 各音楽教育研究団体研究大会、学会等の大会冊子に広告を掲載した。全日本音楽教育研究会全
国大会他9件。
- ウェブサイト「ONKANウェブネット」やメールマガジン（約3,400人）、SNSを通して
発信した。
- 賛助会員「音楽鑑賞教育マイスター会員」を運営した。会員に対しては、季刊「音楽鑑賞教
育」の配付、主催講習会の割引のほか、令和5年度に開始した鑑賞教材のストリーミング配信
の充実を図り、サブスクリプションとしてのサービスを強化した。

- 教員に対面で直接プレゼンテーションする機会を強化するため、広報イベント「ONKANフェア2025」の開催を検討し準備を行った。

3 出版・情報発信

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

- 季刊「音楽鑑賞教育」を年4回（V o l . 5 7 ～ V o l . 6 0）発行した。
- 内容は、毎号を完結型とすることで、バックナンバーとして購入できる特集を企画した。
- 特集の内容は、より実践的な「授業づくり」について、いろいろな角度から取り上げ、読みやすい、わかりやすい誌面づくりの工夫を図った。
- 3年目の企画となった「音楽探究」「私の Recipe」では、引き続き教員歴の浅い教員にも指導法の参考となるよう展開例と指導のノウハウを提供した。
- 「私が工夫している授業紹介」は、子どもたちの学びに効果のあった授業、ICTを活用した授業などを引き続き募集し、編集会議で検討して掲載した。
- 各号の具体的な内容は、編集会議を開催して検討し決定した。

V o l .	通 巻	発 行 日	特 集 「音楽の授業づくり」
5 7	5 6 1 号	4 月 1 日	発問が変える 子どもの学び
5 8	5 6 2 号	7 月 1 日	楽しもう！ 世界の諸民族の音楽
5 9	5 6 3 号	1 0 月 1 日	ワークシートの工夫と学習評価
6 0	5 6 4 号	1 月 1 日	個別最適な学びと協働的な学び

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名 前	所 属 ・ 役 職
石上 則子	元東京学芸大学准教授
大熊 信彦	東邦音楽大学特任教授
藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
本多佐保美	千葉大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

(2) 書籍、映像資料の発行

- 令和4年度からの研究委員会の研究内容「学習評価の具体に焦点を当てながら、学習内容にふさわしい指導方法を示す」について、その成果を書籍として発行した。
 - 「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり2 小学校・中学校 学習評価編（事例集）」
- 令和3年度の助成研究募集入選者による2年間の研究成果をまとめた報告書を書籍として発行した。
 - 音楽教育研究報告第35号
「鑑賞力を高める指導法研究 ―音楽作品と物語文の味わい方の共通性に着目して―」
長崎教科教育研究会モデラート

(3) ウェブサイト「ONKANウェブネット」の運営

令和5年度にリニューアルを行い、ユーザビリティが向上したウェブサイト「ONKANウェブネット」通して、月刊「音楽鑑賞教育」バックナンバー記事など、音楽教育に関わる情報を配信した。

Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業 (公益目的事業2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和6年度の選考委員会は任期2年の1年目となり下記3名の方に委嘱した。

選考委員一覧 ※選考委員長を除き五十音順、所属及び役職は令和6年10月現在、敬称略

名 前	所 属・役 職
辻村 哲夫	選考委員長／元文部省初等中等教育局局長／財団常務理事
河野 正幸	聖徳大学名誉教授
嶋 英治	元福島大学特任教授

1 助成研究募集

令和6年度助成研究募集を実施した。実施に当たっては、選考委員会内に審査委員会を設置し、下記の3名の方に選考専門委員を委嘱した。

選考専門委員一覧 ※チーフ(◎)を除き五十音順、所属及び役職は令和6年10月現在、敬称略

名 前	所 属・役 職
◎藤沢 章彦	元国立音楽大学教授／財団理事
小佐野 圭	玉川大学名誉教授／神奈川県立相模原弥栄高等学校講師
津田 正之	国立音楽大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事

(1) 募集内容

鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究

(2) 実施期間

募集期間：令和6年 7月 1日～ 9月30日	
審査選考：令和6年10月 3日	第1回審査委員会
令和6年10月 4日～11月 5日	審査・第2回審査委員会
令和6年11月 6日～11月22日	最終選考・選考委員会本委員会
入選発表：令和6年12月 2日	ONKANウェブネット及び郵送通知
令和7年 4月 1日	入選研究計画発表 (季刊「音楽鑑賞教育」Vol. 61)

(3) 応募状況

応募数 3件

(4) 審査基準

次の①から④までを満たす研究計画である

- ①鑑賞領域の学びを中心としている
- ②これからの音楽科教育に資する内容である
- ③授業実践による検証を伴った研究である
- ④研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

(5) 入選結果

入選数 2件

入選者 〈グループ研究〉ことばと音の研究会(大阪府)
代表：山口 聖代(桃山学院教育大学)

研究テーマ：音とことばの相互補完的鑑賞指導 ～音楽科と国語科の教科横断的学習の試み～

〈グループ研究〉 FUKUOKA Technology of Performance
音楽教育研究会（福岡県）

代表：城 佳世（九州女子大学）

研究テーマ：音楽鑑賞教育における生成AIの活用と課題に関する研究

(6) 助成金

各500,000円

(7) 後援

全国都道府県教育長協議会／全日本音楽教育研究会／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／
全国高等学校長協会／一般財団法人日本私学教育研究所

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

1 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、音源を使い、高品位の再生装置（TADシステム）での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室をご案内した。

2 財団主催コンサート、音楽講座の開催

(1) 「これぞ！シューベルトの歌曲 ～この解説！この歌唱！～」

11月9日16時開演 一般3500円／高校生以下1000円 としま区民センター小ホール
シューベルトの権威で財団常務理事の渡邊學而と、ドイツリートの巨匠バリトンの河野克典の組み合わせコンサートが実現。ピアノ河野紘子、ナレーション杉山芳子を得て、チームワークの取れた内容の濃い、解説付きコンサートとなった。

(2) 没後100年「プッチーニの醍醐味 ～小さなホールで聴く名アリア～」

10月26日14時開演 予約4000円／懇親会1000円 松本記念音楽迎賓館Aホール
解説・進行：オペラにも詳しい音楽評論家の加藤浩子 テノール：澤崎一了 ピアノ：瀧田良子
演奏は日本オペラ振興会のマネジメントにご協力をお願いした。開演直前の進行構成の打合せで、音鑑らしさを表わしたく、伴奏部分で他の曲との比較などをお願いした。お客様は素晴らしい内容と演奏に満足され、アンケート全員「大変満足」。

(3) 奥田佳道がひもとく「ウイナ・ワルツ、オペレッタの系譜、魅力」

(ヨハン・シュトラウスⅡ世、生誕200年記念イヤー)

3月29日14時開演 一般2000円／中学生以下1000円 松本記念音楽迎賓館Bホール
高級オーディオTADを駆使した音楽を楽しみながらの講座。ウィーンに学んだ講師ならではの内容に音楽通のお客様も満足され、アンケート回収率8割と好評。次年度もウィーンに関する音楽講座を企画。

3 財団後援・協賛コンサート

今年度は公益財団法人の協賛として、初めて公募を行った。予てから理事間で課題とされていた

「幼児（小学校低学年以下）向けの音楽鑑賞」のきっかけを求めるため、ノウハウのある団体、個人に一件5万円でコンサートを委嘱する形での協賛とし、演奏会・音楽講座に関わる「コンサート小委員会」が提案し、「選考委員会」が認定。下記4件への協賛をした。

(1) 11月4日「医学における邦楽の調べ」 主催：柳瀬恭一（日本大学医学部関係者）

会場：日本大学医学部講堂 入場者：30名 入場料：無料

内容：邦楽楽器の演奏を身近に聴かせる。

演奏曲は 大きな古時計、さくらさくら（箏）、春の海（尺八） その他童謡など

本件は年度最初の応募であり、その内容が掴み辛かったが、公開募集と入院中のお子様にも聞かせる計画であることを確認し、協賛を決めた。結果として、入院中の子どもの参加に不安を覚えた親の意向で、大人だけの入場となった。協賛の目的、意図をより明確に示す必要性を学び、次年度公募の募集要項の見直しを行うこととした。

(2) 3月3日「春のコンサート」 主催：高橋由紀子（子どもも聴く演奏会の主催経験あり）

会場：田園調布せせらぎ館 入場者：52名（内子ども1名）

入場料：大人2500円／小学生500円

内容：ピアニストによる春にまつわる名曲コンサート

音楽鑑賞振興財団が協賛することを告知後、関係者の参加が急増し、完売。保育園幼稚園への声かけが間に合わず、子ども参加は1名。幼児、子ども枠を設けて告知、販売するよう、事前に助言が必要であった。

(3) 3月28日「シューマン物語」 主催：みむみむの森

会場：サントリーホール ブルーローズ 入場者：240名（内子ども119名）

入場料：大人6500円／子ども1500円（協賛金により値下が可能になった）

これまで音鑑が後援、協賛を続けた団体の演奏会で、全国展開している中の一回。シューマンに扮した役者による物語の進行と、演じられた場面に縁のある音楽の演奏（ピアノ）。語られる内容は残されている書簡を基にしたもの。

(4) 3月29日「未来を支えるチャリティコンサート」 主催：テンポル・バート

会場：松本記念音楽迎賓館Aホール 入場者：31名（内子ども12名）

入場料：大人1500円／子どもは招待（子ども料金500円は演奏者が拠出している）

内容：ぬいぐるみ姿の進行係と、絵本から出てきたような衣裳の演奏者たちのコンサート。聴いて参加して、お別れには楽器に触れる形で子どもを誘導。各地で上演中。

主催者自身が団員を雇用し、チャリティと付して音楽に接する機会の少ない子を迎えることが主旨。

4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売

音楽をより楽しく鑑賞し、聴き深めるための電子書籍「聴いて発見！クラシック音楽のひみつ」及び音楽鑑賞の個人記録を綴るノートについて、販売を続けたが、大きな伸長は得られなかった。

5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

● 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与を通して、音楽愛好家の底辺を広げ、より身近な音楽鑑賞の機会を提供することに結びつく演奏者の育成を続けている。

● コンサートの支援

音楽鑑賞を振興する財団として、松本記念音楽迎賓館を他のホールにはない仕組みで運用し、それを活用する主催者や演奏家を通じて、人々の音楽鑑賞の機会を増やしている。それは、どなたでも参加できる松本記念音楽迎賓館友の会の会員への支援で、入場収入が至らない場合に備え、ホール利用料を入場収入の半額とする共催制度であり、庭園の桜の賑わいに合わせた、平日の特別料金での演奏会の提供である。本年度もこれを実施した。加えて、新型コロナウイルスの影響で、演奏活動に経済的な不安を抱えた演奏家や主催者に向け、令和4年1月から開始した、コンサート特例価格を本年も続けた。この適用対象はお客様からのチケット収入で成り立っているコンサートのみとし、会員制コンサートや演奏技能発表会には適用していない。上記の策は徐々に一般に浸透し、演奏家や主催者からの好感を得ているが、演奏会でのご利用単価は減少している。

6 チェンバロ音楽普及の支援

松本記念音楽迎賓館の存在がその企画の発端となった、日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」は、本年度も5月18日、19日に開催され、チェンバロ奏者、チェンバロに関心をもたれる一般の方、チェンバロ業者が一堂に会する場として、有意義な支援を続けることができた。一方で関心を持たれた方が飛び込みで参加できる仕組みもキャパシティもなく、普及面では課題を残した。その他、日本チェンバロの協会のイベントに協力したり、後進の指導の場としての松本記念音楽迎賓館を使いやすい価格での貸し出し協力を行った。

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座は、下記の内容で、NPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林の形態や湧水、水辺の生き物や植物の説明は、ナチュラルリンクトラストの小出仁志氏はじめ樹木の専門家の関口克己氏の実地指導で行われた。本年度は子ども参加枠を設けたことにより、ファミリー参加が増えた。講座も小学生を意識した内容に切り替えを依頼した。また、講座終了時刻に合わせ、子どもに体験させたい音楽イベント（リハーサルや演奏会）を組み合わせ、自然環境保護と生の音楽を両方体験できる音鑑らしい配慮をし、大変好評だった。

※（ ）内数

講座名	開催日	講座内容	受講者数
第1回	4月28日(日) 10時から14時	松本記念音楽迎賓館の植物 崖線樹木の機能と役割	23名 (子8名)
第2回	10月27日(日) 10時から14時	崖線の秋の植物、周辺の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生き物	15名 (子6名)
第3回	12月 8日(日) 10時から14時	クリスマスリースの素材 で知る地域の 自然	23名 (子8名)

※第2回は開催直前での急なキャンセルあり

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

音楽鑑賞振興財団が保有する松本記念音楽迎賓館の諸施設を、公益事業目的 3 以外の目的で貸与し、収入を得ている。収入の核となるドラマの撮影日数は、前年より 5 回増え、16 回あったが、利用単価が下がり、期待した収入には至らなかった。ご迷惑をお掛けする近隣への配慮が友好関係を結び、撮影制限条件が緩んではいるが、閑静な住宅地で暮らす身になって、ロケ隊を指導、誘導している。結婚式利用については、ブライダル業者が独自に広報し、また有力ブライダル誌と提携、掲載をしたが、問い合わせや館内見学に至るケースはなかった。松本記念音楽迎賓館の魅力は、実際に館内を見学しないと伝わらない部分があり、来館者で適齢の方への広報活動も行っていきたい。